

入院中の子どもたちに笑いと癒やしを
一と川崎医科大付属病院（倉敷市松島）
は、クラウン（道化師）を定期的に招く
取り組みを始めた。欧米では「ホスピタ
ル・クラウン」などと呼ばれており、「心
のケアの専門家」としての活躍が期待さ
れる。（石井聡）

入院中の子ども ピエロが癒やし

川崎医科大付属病院取り組み

「わあ、すごい」。定期訪
問初日の18日、赤鼻のクラウ
ンが2人一組で小児科病棟に
登場し、次々とパフォーマン
スを繰り出した。風船を曲げ
て帽子を作ったり、リングが
ロープをすり抜ける手品を披
露したり…。時折、失敗を演
じてみせると子どもたちは大
笑い。倉敷市立葦高小学校4
年中村遙さん(10)は「入院は
退屈だったから、ピエロが来
てくれて楽しかった」と笑顔
を見せた。
NPO法人「日本ホスピタ

ル・クラウン協会」（東京、
名古屋市）から認定されたク
ラウンが原則2人一組で、2
着用し、手の消毒も徹底。



治療意欲高まり期待

子どもたちのストレスとなら
ないよう、大きな声や音も出
さないようにしている。
同協会は認定クラウン85人
を全国72病院に定期派遣して
おり、中国地方では初。こう
した取り組みは欧米で始ま
り、自ら実践した米国人医師
パッチ・アダムス氏の半生は
映画にもなった。国内ではN
PO法人「日本クリニックラウ
ン協会」（大阪市）なども同
様の活動を展開している。
川崎医科大の寺田喜平・小
児科学教授は「長期間入院し
ている子どもたちのQOL
（生活の質）の向上につなが
る。笑顔になることで、治療
意欲も高まるだろう」と効果
に期待を寄せる。

入院中の子どもにも風船を手渡すクラウン＝18日、
川崎医科大付属病院小児科病棟